

FLEX-TD方式の概要

Overview of FLEX-TD system

1996年にサービスを開始したFLEX-TD方式は、モトローラ社のFLEX方式とNTTドコモのタイムダイバーシチ技術を融合した方式である。伝送速度は1,600bps、3,200bps、6,400bpsの中から選択できる。伝送精度や長文の伝送などに優れており、国際電気通信連合(ITU)から国際標準規格として認められた。

従来方式(NTT1,200bps方式)との比較

Comparison of the NTT's 1200bps system and FLEX-TD system

項目	NTT1,200bps方式	FLEX-TD方式
伝送速度	1,200	可変(1,600 / 3,200 / 6,400bps)
速度 / 送信回数	固定	可変(1~4回)
時間ダイバーシチの有無	無	有
誤訂正符号	BCH(31,16)	BCH(31,21)+VLDTEI
加入者 / 1波*1	3.2万加入	最大53.4万加入
長文分割伝送	無	有
OTA機能*2	無	有

*1: 数字15桁(FLEX-TD方式) / 12桁1,200bpsにおける最悪時呼数0.2の場合の容量。

*2: O.T.A=Over-The-Air Pager Controlの種。運用中の無線信号による受信機個別制御機能。

サービスエリア図

(全国マルチエリア)
Coverage map
("Nationwide multi")



受信機及び、ネットワークを切替えることで全国どこでも受信可能。

タイムダイバーシチ技術

タイムダイバーシチは、無線呼出の受信率を向上する技術としてFLEX-TD方式に導入された。従来は受信率向上のために繰り返し送信していたが、すべての受信信号が不完全でも合成によって正しい送信信号を復元できる。従来に比べて、雑音や干渉、フェージングに対してより強くなっており、長文を伝送するときの受信品質が大きく改善された。

タイムダイバーシチ技術

Time diversity technique

